

KVK オーバーヘッドシャワー
KF3080・KF3090・ZS3080

取扱説明書1

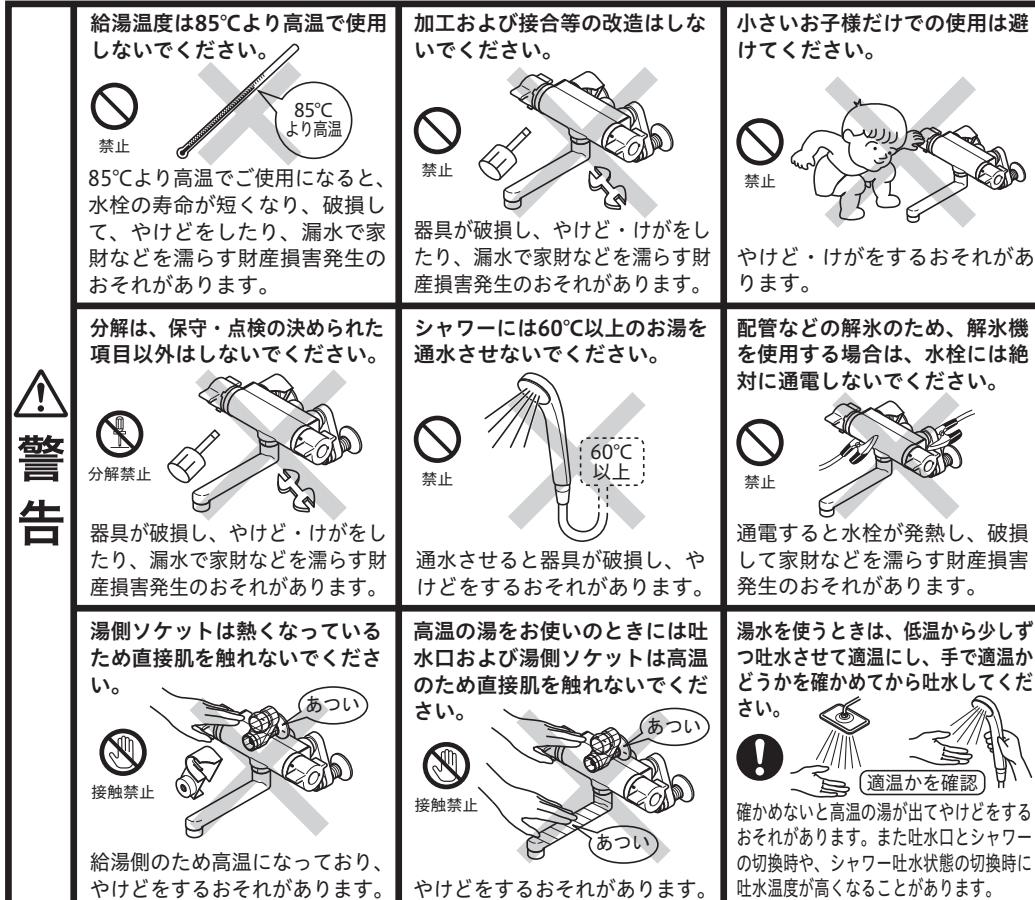
- ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。
- この取扱説明書と施工説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。
- この取扱説明書はKF3080仕様のイラストで説明しています。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



やけど、漏水をした場合の処置 やけどをした場合は、すぐ、その箇所に水を流しながら冷やしてください。そして専門の医師の診察を受けてください。漏水した場合は元栓、または止水栓を開めてください。ポンプをお使いの場合は、ポンプを止めてください。そして専門の業者に修理を依頼してください。



1 ページ



2 ページ

ご使用の前に1

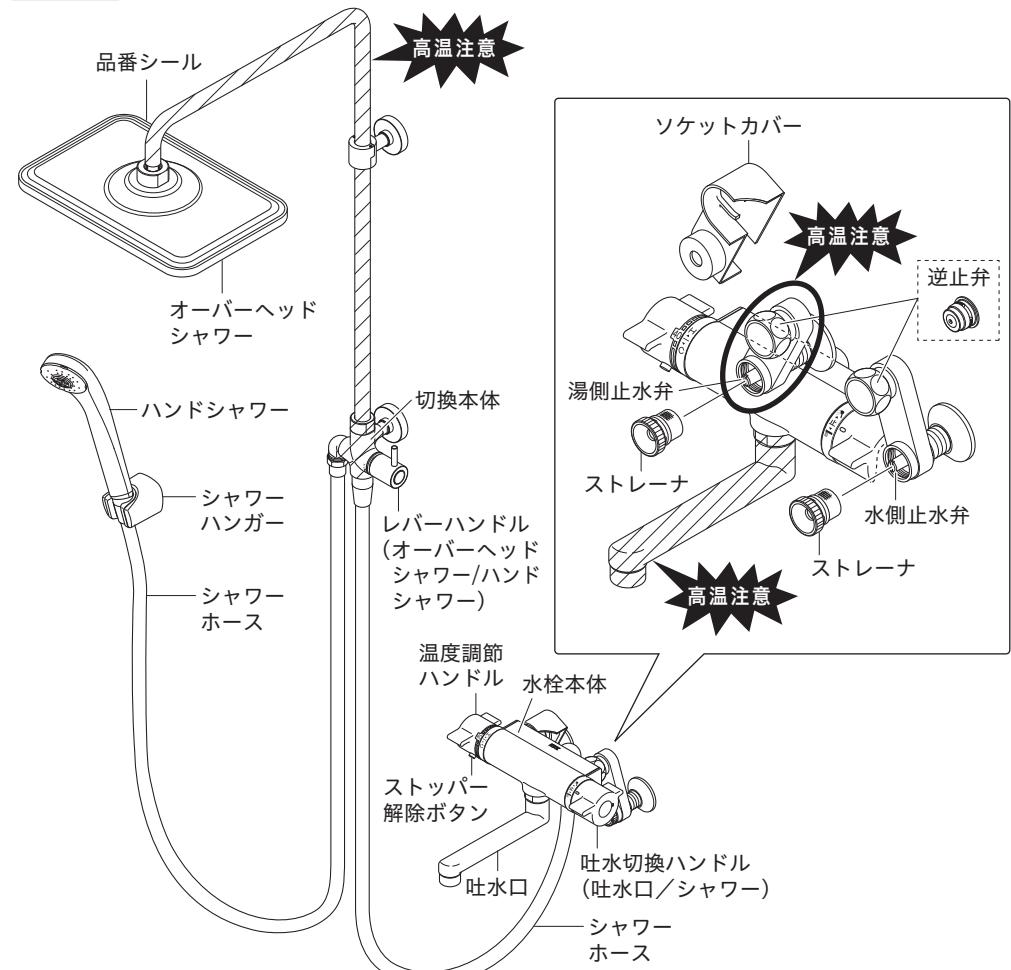
給湯器の使用上の注意

- 給湯器の給湯温度は、50°C~60°Cに設定することをおすすめします。
- 必要とする吐水温度[適温約40°C]が得られないことがあります。
- 吐水切換ハンドルは、できるだけ全開で使用してください。
- 給湯器が着火しない場合があります。(瞬間型の場合)
- 吐水切換ハンドルを全開にすると吐水量が多すぎる場合は、止水弁であらかじめ流量調節を行ってください。(それでも給水圧力が高く、吐水量が多すぎる場合は吐水切換ハンドルで調節を行ってください)

各部の名称

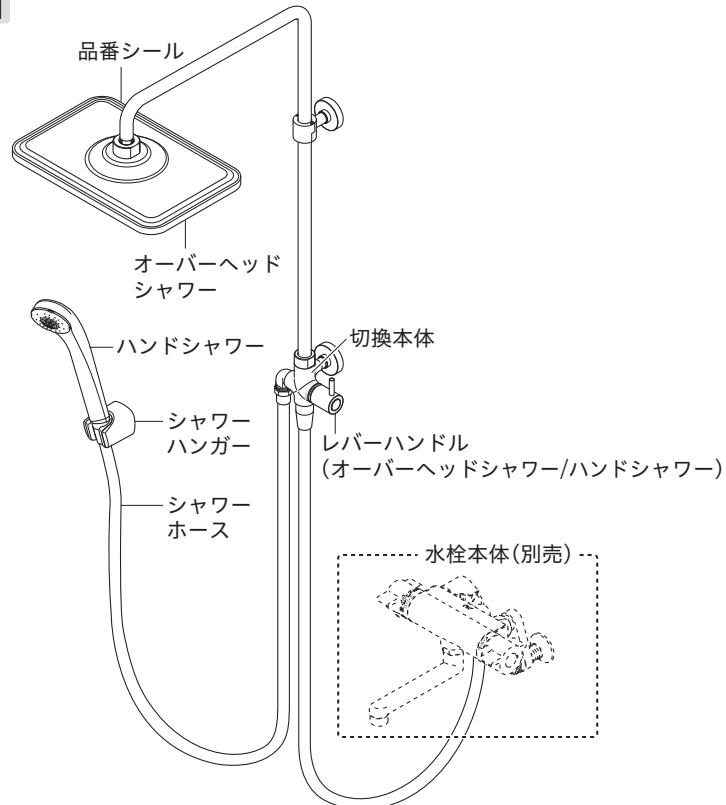
※品番により、各部品の形状が異なる場合があります。

[KF3080]



3 ページ

[ZS3080(水栓なしタイプ)]

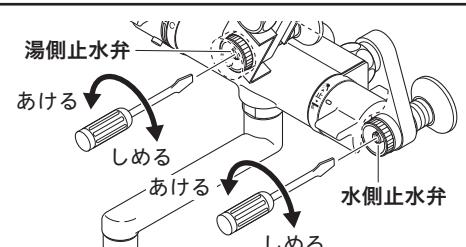


●水栓なしタイプ(ZS3080)の場合は、水栓本体の説明書と合わせてご確認ください。
(流量の調節方法／温度調節ハンドルの設定方法／ストレーナーの清掃方法等、お客様お使いの水栓本体のメーカーと機種により異なります。お持ちの水栓本体の説明書の記載内容に従ってください。)

※他社水栓の構造や操作方法およびメンテナンス方法についてはご使用のメーカーをご確認のうえ、各水栓メーカーへお問い合わせください。

流量の調節方法

流量の調節は右記の方法で行ってください。



4 ページ

ご使用の前に 2

温度調節ハンドルの設定方法(水栓なしタイプZS3080は除く)

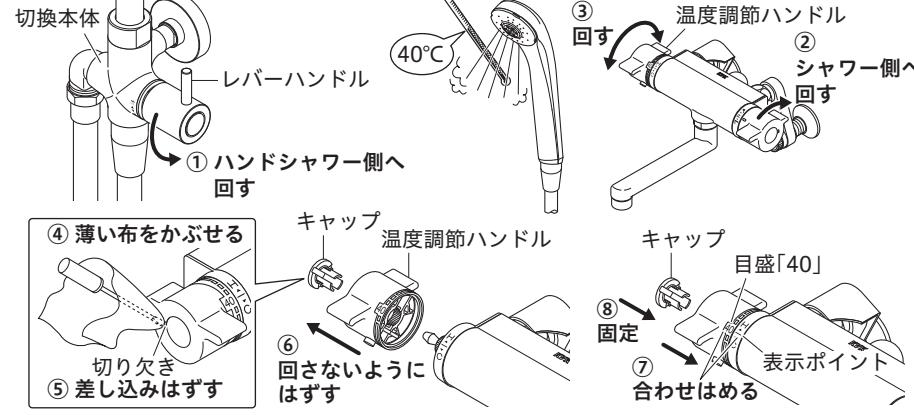
工場出荷時に温度調節をしていますが、取付現場の圧力状況により目盛通りの湯温にならない場合があります。温度調節ハンドルの目盛が吐水温度とズレている場合、温度調節ハンドルをはめ直してください。

- 【はじめに確かめてください】
- 止水弁を全開にしているか確かめてください。
 - ストレーナにゴミ詰まりがないか確かめてください。
 - 給湯温度50°C~60°Cの湯が給湯できているか確かめてください。

- ① 切換本体のレバーハンドルを下側(ハンドシャワー側)にします。
② 水栓本体の吐水切換ハンドルをシャワー側にします。
③ 全開吐水で目盛に關係なく40°Cのお湯が出るところまで、温度調節ハンドルを回します。
【お願い】キャップをはずす際は、傷がつかないようにしてください。
④ 薄手の布を精密ドライバー先端にかぶせます。
⑤ 精密ドライバーをハンドルの切り欠き部に差し込みキャップをはずします。
⑥ 温度調節ハンドルを回転させないようにします。
⑦ ハンドルの目盛「40」と表示ポイントを合わせて温度調節ハンドルをはめます。
⑧ キャップにて固定します。

【お願い】取り付け後は、温度調節ハンドルの目盛と吐水温度が合っていることを確認してからご使用ください。

※目盛は温度表示ではありません。目盛は温度調節の目安としてください。



ご使用方法 1

温度調節方法

温度調節ハンドルの目盛を表示ポイントに合わせます。

目盛「40」を目安にしてください。

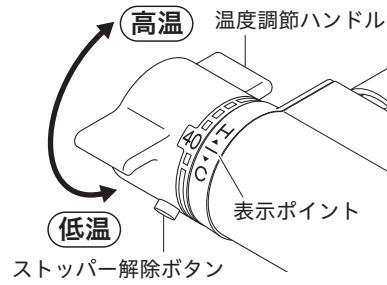
高温に回しますと、目盛「40」を少し過ぎたところで一度温度調節ハンドルが止まります。(温度:約42~45°C)

40°C以上の高温を出すときは、ストッパー解除ボタンを押しながら回してください。

使用後は目盛「40」以下に戻してください。

※目盛は温度表示ではありません。温度調節の目安としてください。

※本製品は最高吐水温度規制商品(50°C)となっていますが、給水・給湯圧力と温度により最高吐水温度が変わる場合があります。



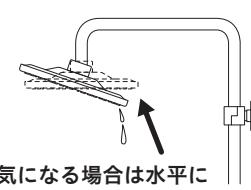
5 ページ

ご使用方法 3

止水時の水滴について

【止水後のオーバーヘッドシャワーの水滴について】

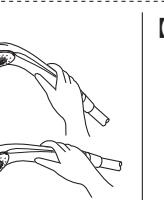
オーバーヘッドシャワーに角度をつけて使用すると、止水時に水滴が落ちることがあります。これは異常ではありません。気になる場合はオーバーヘッドシャワーを右図のように水平にしてお使いください。



【止水後のハンドシャワーの水滴について】

シャワーを止めた直後、シャワーヘッドから水滴が落ちることがあります。これは、シャワーヘッド内の残留水です。異常ではありません。

シャワー止水後は、シャワーヘッドを振って水を切ってください。



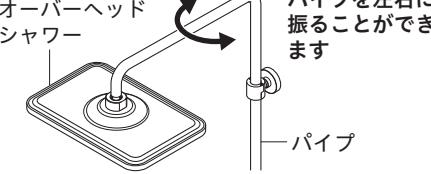
【△注意】シャワーヘッドやホースを水に浸けたまま放置しないでください。水が逆流するおそれがあります。

オーバーヘッドシャワーの吐水位置・角度の調整

吐水位置の調整

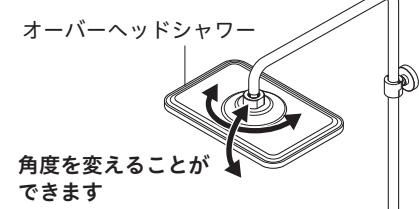
お好みの位置に合わせて、オーバーヘッドシャワーを左右に回して使いします。

※オーバーヘッドシャワーを壁や照明にぶつけないようにしてください。



吐水角度の調整

お好みの角度に合わせて、オーバーヘッドシャワーを傾けて使います。



日常のお手入れ 1

お手入れ方法

【軽い汚れの場合】

汚れは柔らかい布やスポンジで水洗いしてから、乾いた布で拭き取ります。

【ひどい汚れの場合】

中性洗剤をぬるま湯でうすめて、やわらかい布で汚れを拭き取ってから、乾いた布でから拭きします。



【使ってはいけないもの】

水栓には樹脂部品が多く使用されているため、シンナー・アセトン・ベンジン・カビトリ剤・酸性・アルカリ性系・塩素系洗剤等は使わないでください。

金たわし・みがき粉等は外観にキズが入るおそれがありますので、使わないでください。



【お願い】メラミンフォームを使用する場合は、文字やマーク等印刷部分をこすらないようにしてください。

7 ページ

ご使用方法 2

吐水切換方法

シャワー(ハンドシャワー/オーバーヘッドシャワー)からの吐水

水栓金具本体の吐水切換ハンドルを上に回すとシャワー「ハンドシャワー/オーバーヘッドシャワー」から湯水が出てきます。上側いっぱいまで最大流量になります。

吐水口からの吐水

水栓金具本体の吐水切換ハンドルを下に回すと吐水口から湯水が出てきます。下側いっぱいまで最大流量になります。

オーバーヘッドシャワーの使いかた

切換本体のレバーハンドルを上に回すとオーバーヘッドシャワーから湯水が出てきます。

流量の調節は水栓本体の吐水切換ハンドルで行ってください。

【△注意】オーバーヘッドシャワーを使用したあとは、不意に水をかぶったり、やけどをするおそれがありますのでレバーハンドルをハンドシャワー側へ切り替えてください。

ハンドシャワーの使いかた

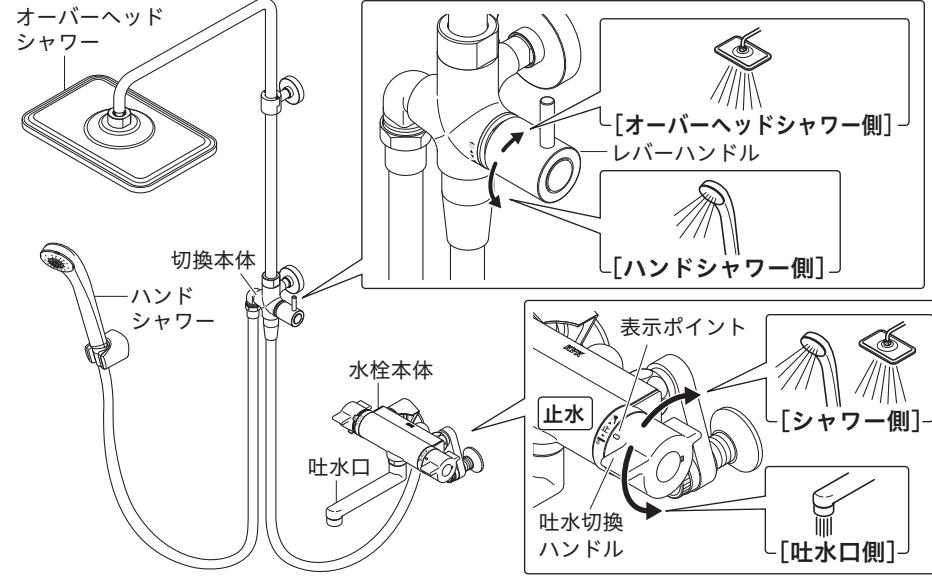
切換本体のレバーハンドルを下に回すとハンドシャワーから湯水が出てきます。

流量の調節は水栓本体の吐水切換ハンドルで行ってください。

湯水を止める

水栓金具本体の吐水切換ハンドルの表示ポイントを「止」に合わせると止水します。

※使用後は、切換本体のレバーハンドルを下側(ハンドシャワー側)に回し、ハンドシャワーに切り替えてから、水栓本体の吐水切換ハンドルで湯水を止めてください。



【△警告】湯水を使うときは、低温から少しづつ吐水させて適温にし、手で適温かどうかを確かめてから吐水してください。確かめないと、高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

【△注意】吐水切換ハンドルはゆっくり操作してください。急な操作はウォーターハンマー(水撃)音が発生し、配管からの漏水により家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

【通水音が大きい場合】吐水切換ハンドルを使用する際に通水音が大きい場合は、湯水の止水弁をしばらく吐水切換ハンドルを全開にして使用してください。(流量の調節方法 参照)

6 ページ

日常のお手入れ 2

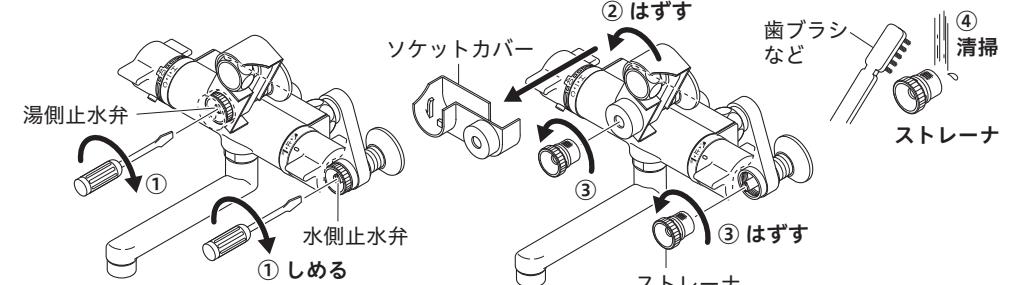
ストレーナの清掃方法

ソケットと吐水口のストレーナにゴミがつまると、吐水量が減ったり、希望する湯温にならない場合がありますので、定期的に清掃してください。

ソケットのストレーナ清掃

【△警告】・ストレーナの清掃は、止水弁または元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。
・ストレーナをいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。
・湯側ソケットの中には熱湯が溜まっている場合がありますので、操作の際はやけどをしないようにしてください。

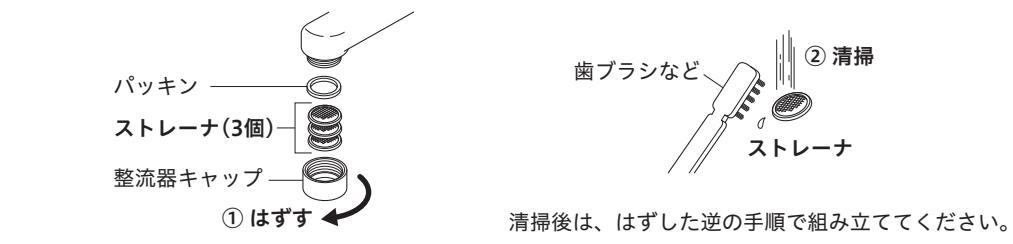
- 湯水の止水弁[2か所]または元栓をしっかりと締めて、湯水が出ないことを確認してください。
- ソケットカバーを反時計回りに回してから、手前に引いて取りはずします。
- 湯側・水側のストレーナ[2個]を取りはずします。
- ゴミ・水アカ等を洗い流します。



清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。
ストレーナを締め込む時、吐水切換ハンドルを吐水口側にしてください。

吐水口のストレーナ清掃

- 吐水口の整流器キャップをはずす方向にひねって、ストレーナを取りはずします。
- ストレーナをブラシで水洗いします。



清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

凍結予防のしかた

●水栓が凍結すると部品が破損し、水漏れの原因となります。

凍結による部品の破損は、保証期間内でも有料修理となります。

●凍結が予想される場合は、水栓周囲の温度が氷点下にならないようにしてください。

なお、氷点下になる場合は、凍結予防の処置をしてください。

・水栓より少量の水を出しておきます。・配管部などに布を巻きます。

【△警告】解凍機を使用する際は、水栓(給水・給湯管含む)には通電しないでください。
水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

8 ページ

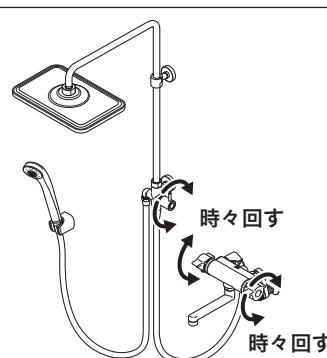
404555-03

定期的な点検

【△注意】安全・快適にご使用いただくために、定期的な点検を行ってください。
漏水等による財産損害発生のおそれや、機能部の操作性が損なわれるおそれがあります。

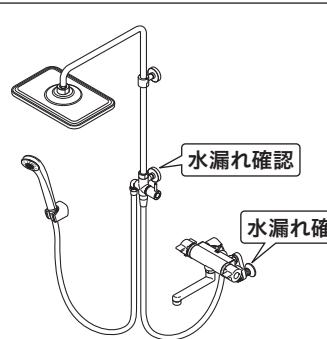
ハンドルの操作性(1か月に1回)

●時々ハンドルをいっぱいに回してください。
長期間回さずに使用すると、機能部に水あかなどが付着し、下記の性能が損なわれるおそれがありますので時々ハンドルをいっぱいに回してください。



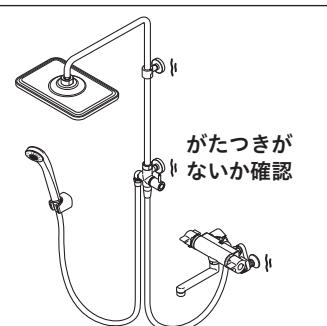
配管まわりの水漏れ(1か月に1回程度)

●配管まわりの水漏れがないか確認してください。
部品の劣化・摩耗などによって生じる漏水で、家財などを漏らす財産損害発生を未然に防止するため、配管まわりの点検を行ってください。



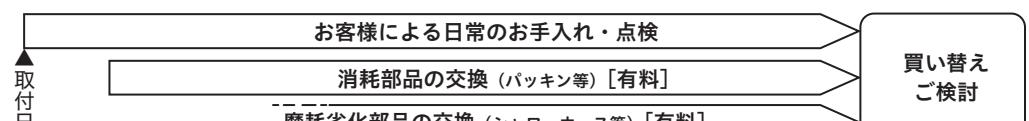
製品のがたつき(1か月に1回程度)

●製品のがたつきがないか確認してください。
配管まわりにがたつきがあるまま使用すると、配管に負担がかかり、水漏れの原因となります。
また、製品のがたつきなどの異常を放置すると、部品が破損したりして、けがをするおそれがあります。



9ページ

定期的な部品交換(部品は水栓の種類によって異なります)

使用年数
1年 2年 3年 4年 5年 6年 7年 8年 9年 10年 11年 12年

お客様による日常のお手入れ・点検
取付日
消耗部品の交換(バッキン等)[有料]
摩耗劣化部品の交換(シャワーホース等)[有料]
買い替え
ご検討

【△注意】中でもより安全のため、逆止弁は早めの点検・交換をおすすめします。逆止弁が正常に機能しないと、状況によっては一度吐水した水が逆流するおそれがあります。(逆止弁は仕様により付いていないものがあります。逆止弁の位置は「各部の名称」をご覧ください。)
部品交換のご依頼は、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご連絡ください。

部品の交換 部品が摩耗劣化すると水漏れ等の原因になりますので、交換が必要です。
・摩耗劣化部品の例(水栓の種類によって異なります)
例)カートリッジ、シャワーヘッド、シャワーホース、逆止弁等

補修用部品の供給期間 この製品の補修用部品(機能維持に不可欠な部品)の供給期間は製造中止後10年です。

10ページ

故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページおよび項目
湯水が止まらない	吐水切換ハンドルは止水位置に合っていますか	吐水切換ハンドルを止水位置に合わせる	6ページ 「吐水切換方法」
	止水直後シャワーヘッドから落ちる水滴は、シャワーヘッド内の残留水です 故障ではありません		—
吐水量が少ない(シャワー)が弱い	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	4ページ 「流量の調節方法」
	ストレーナにゴミ等がつまっていますか	ストレーナを清掃する	8ページ 「ストレーナの清掃方法」
	ガス給湯器と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする	—
	ストレーナは凍っていませんか	ストレーナにぬるま湯をかける	—
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	4ページ 「流量の調節方法」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	4ページ 「流量の調節方法」
	給湯器の給湯温度を50°C~60°Cに上げる		—
温度調節がうまくできない	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁で流量を調節する	4ページ 「流量の調節方法」
	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
	ストレーナにゴミ等がつまっていますか	ストレーナを清掃する	8ページ 「ストレーナの清掃方法」
吐水飛び散る	温度調節ハンドルの設定は合っていますか	温度調節ハンドルの設定を確認する	5ページ 「温度調節ハンドルの設定方法」
シャワーの吐水状態が不安定	ストレーナにゴミ等がつまっていますか	ストレーナを清掃する	8ページ 「ストレーナの清掃方法」
	給湯器の給湯温度を50°C~60°Cに設定し、水側止水弁をしばることにより、改善される場合があります		—

[水栓本体内部のメンテナンスをする場合]

【△注意】修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。
水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

●修理のご依頼は、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご連絡ください。

0120-474-161 ※携帯電話からは、0574-55-1191をご利用ください。

水栓の品番をご確認ください
水栓に貼ってある品番シールをご確認ください。シールの左下が品番です。

[シールの貼付位置は「各部の名称」をご覧ください]

●商品に関するお問い合わせはKVKお客様ご相談センターにご連絡ください。

0570-099-552

修理料金は技術料+部品代+出張料で構成されています

技術料…診断・故障箇所の修理及び部品交換・調整・修理完了時の点検等の作業にかかる費用

部品代…修理に使用した部品代

出張料…製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用

株式会社KVK

インターネットホームページ <http://www.kvk.co.jp/>

11ページ

12ページ